男女共同参画センター通信

男女共同参画週間事業
主催講座「笑いの中から男女共同参画を」
～寄席囃子とともに　恩田えり流男女共同参画～

6 月 19 日、 前日からの雨もあがり講習室いっぱいの参加者、恩田さんの温かな語り口に寄席囃子の色々、笑って、踊って。

中入り後は、ご自分の経験から男女共同参画をわかりやすくお話ししていただきました。

✿男女共同参画社会基本法の公布・施行日である 6 月 23 日～29 日までの 1 週間は、男女共同参画週間です。

▲普段は脇役で活躍、今日は主役の恩田えりさん

女性，こころの悩み電話相談

◆男性のための電話相談◆
（ちば県民共生センター）
《専用電話》　043-285-0231
毎週火・水曜日　午後4時～午後8時
専門の男性相談員がおうかがいします

清々しく、男の料理
主催講座「男力の見せどころ」
（３月６日、14 日開催）参加者の感想

私がこの講座を申し込んだのは、もともと独身生活が長く、否応なしに料理をしなければならなかった状況であったし、また私自身、料理は嫌いではなかったからだ。

だが、現在は共働きをしている手前、家事分担はもっぱら買い物や洗濯等で境界がせめぎ合っている。家事分担の境界が崩れる恐れがある為、この講座を受けることは妻には秘密にしておいた。

しかし講座の当日、三角巾が見当たらない為、妻に尋ね、ついに知れるはめになってしまった。妻は何気ない顔をし、また何も言わなかったことが、かえって気になる。

調理室は、我が家にはない器材や前もって揃えた調味料や材料があり、講師がレシピに沿って作業を始める。参加者は年齢がまばらなおじさんばかりで、最初は寡黙なおじさんも手順や要領を互いに確認する為、参加者の間から会話が始まる。

二日目は魚の刺し身の作り方である。包丁は牛刀を使用するが、我が家では、野菜や肉等切るものは万能包丁一つしかないため、包丁から違いが出てしまった。牛刀は切れる、切れる。魚をさばく様子は、まるで参加者の競い合いで、いかに綺麗に早く魚をさばくか、多少なりとも男同士のプライドを懸けた戦いが垣間見える。刺し身を並べている人や、アジをたたきにする人もいて、調理が終われば、昼食を兼ねた食事で各自が作った作品の回しっこ。これで講座参加費の元は取ったと確信する。

早速、我が家で台所に立った。調味料は砂糖・塩・味噌・醤油・酒・みりんしかなく、最初から体をなしていないが、手抜きをして調理をしてみる。妻は時々後ろから覗き込むも、作った中華料理を黙々と食べ、評価はしなかったが、清々しい経験をまた積んだに違いないと確信した２回の講座であった。

◂名(迷)シェフに早がわり
（感想を書いた方ではありません）

男女共同参画だより

№10　平成 22 年 6 月

八千代市男女共同参画課　☎047-485-7088
八千代市男女共同参画センター　☎047-485-6505
住所：八千代市八千代台南 1-11-6 （八千代台東南公共センター4 階）
ホームページ：http://www.city.yachiyo.chiba.jp/siyakusyo/danjo/
トップページ ≫ くらしのガイド ≫ 男女共同参画

「わたしたちが目指す
男女共同参画社会」

一人ひとりが生きがいのある社会を形成するために、男女が互いにその人権を尊重しつつ、責任を分かちあい、家庭、職場、地域などで十分に能力や個性を発揮できる社会の実現を目指しています。

農家の若手女性グループが八千代市で活動中！

生産者と消費者の顔が見え、話ができる関係づくりや、地域農業の活性化に、若手女性農業者がいきいきと取り組んでいます。今回は、市内の若手女性農業者が集まった「JA 八千代市フレッシュミズ・Enchante（アンシャンテ）倶楽部」の活動を紹介します。

▲アンシャンテのロゴ

▲青果物取り扱い日本一の東京都中央卸売市場（大田市場）の視察。資質向上のため、定期的に研修視察なども行っています

■　みんなで育てよう　男女共同参画センター　　認めあい、支えあい、いきいきと暮らすために　男女共同参画課 ■

農業における男女共同参画

八千代市では、にんじんやほうれんそう、ねぎなどの野菜や、梨、米などの生産、酪農がさかんに行われています。

平成17年2月現在、市内の農家の数は941戸です。農業に従事する人は、男性642人、女性757人の計1,399人となっていて、女性の割合が高くなっています。

家族での経営が主となる農業では、その労働や活動の半分を女性が行っていて、重要な担い手となっています。しかし、農村の伝統的な慣習などから、なかなか適正な評価がされずにきました。

これから農業が発展するためには、農業に従事する女性の声をさらに反映させ、経営に積極的に参画できる環境を整えることや、次世代につなげるための若手女性農業者の育成に努めることも重要になっています。

若手女性グループ誕生！

これまで農業分野において、子育て真っ最中の年齢層の女性たちが、和気あいあいと交流しながら勉強できる機会はほとんどありませんでした。

そのため、県千葉農林振興センターと市農政課がJA八千代市と協力して、若手女性農業者向けのセミナーを2年間開催。そのメンバーが発起人となり、「JA 八千代市フレッシュミズ・Enchante（アンシャンテ）倶楽部（以下アンシャンテ）」を平成21年6月に設立しました。

▲子育てしながら、農業をしている飯嶋奈津子さん。「虫食いのキャベツも、おいしいですよ。見た目や形ではなく、子どもも安心して食べられるものを選んでほしいと思います」

アンシャンテのメンバーは、おおむね20代から40代半ばまでの20名で、梨、野菜、花や酪農などの農家の女性で構成されています。このようにさまざまなジャンルの若手女性が集まった組織は、千葉県内でも珍しいとのこと。

メンバーの中には、栄養士、保育士、野菜ソムリエの資格を持っている人や、農業士の認証を受けた人などもいます。個性豊かなメンバーが、子育てや家事と仕事を両立しながら、協力しあって活動しています。

「アンシャンテ」は、「あなたに会えてうれしい」「はじめまして」という意味のフランス語に由来しています。仲間や地域の人たちとの出会いから農業の可能性や魅力に気づく組織を築いています。

▲茨城大学・長谷川幸介准教授の講演。「地域農業は、昔から女性が担ってきたんですよ」という言葉にうなずく参加者

アンシャンテの活動

アンシャンテは、とうもろこし祭やどーんと祭などの行事への参加、保育園での食育活動、学習会や交流会の開催など、年間を通していろいろな活動を行っています。

6月16日に行われた学習会では、茨城大学の長谷川幸介准教授と江戸しぐさ研究会主宰の外岡仁さんを講師として、「地域農業に活かす女性の力」をテーマに講演会を開催しました。

「農業にはお金を介した売買だけでは計ることができないものがあります。その一例が地域の女性農業者が取り組む地産地消です。

農家の女性たちは愛情や真心を込めて、自分の農産物や加工品作りに取り組んでいます。その気持ちがお金では計ることのできない付加価値として消費者に伝わるのではないでしょうか。また、江戸時代、女性は行商や市などに出て、生活を支えていました。今も地方に伝わる特産物の多くが、その時代の女性たちの工夫によって作られたものともいえます。女性には新しい視点を持ち、それを実行し、時代を開いていく力があるのです」という話に、参加者はうなずきながら聞き入っていました。

この後、目標を持って毎日をいきいきと過ごすために、それぞれが作った「夢プラン」を報告しました。「新しい加工品に挑戦したい」「娘が農家になりたいと言っているので応援したい」など、いろいろな“夢”を発表しあいました。

部長の米ノ井弘子さんは、「新鮮で安全な農作物を届けるために、私たちも貢献できるといいですね。アンシャンテの活動を通して、消費者やいろいろな人との交流できることを楽しみにしています。

◀「パソコンの勉強をして、インターネットを使った販路を増やしたい」と自分自身の目標を話す米ノ井弘子さん

それから、今年は新しいメンバーが増えるといいなと思います。」と話していました。

八千代市の取り組み

八千代市においては、男女共同参画基本計画である「やちよ男女共生プラン」や、千葉県の農山漁村における男女共同参画基本方針により、農業における男女共同参画を推進しています。

具体的な取り組みとして、女性の指導農業士・農業士※1を増やすことや家族経営協定※2の締結の促進などを行っています。

昨年は、アンシャンテのメンバーでもある周郷綾さんが、市内で初めて女性の農業士となりました。家族経営協定は、現在12件締結されています。市では、女性も男性もいきいきと農業に取り組み、新鮮で安全・安心なものを提供できる環境づくりに、これからも取り組んでいきます。

※1 指導農業士、農業士

地域で意欲的に農業に取り組む農業者を県知事が認証するものです。指導農業士は40代以降、農業士はおおむね40代までの農業者から選ばれます。

女性が積極的に経営に参画できる環境づくりのため、女性の指導農業士や農業士就任の推進を図っています。

※2 家族経営協定

家族で経営する農業者が、経営方針や役割分担、家族みんなが働きやすい就業環境などについて、家族間の十分な話し合いに基づき、取り決めるものです。

家族農業経営は、家族だからこその良い点がたくさんありますが、経営と生活の境目が明確でなく、家族それぞれの役割や労働時間、報酬などの就業条件があいまいになりやすく、そこからさまざまな不満やストレスが生まれがちです。家族経営協定の締結をきっかけとして、目指すべき農業経営の姿や、家族みんなが意欲的に働くことが出来る環境を整えるものです。